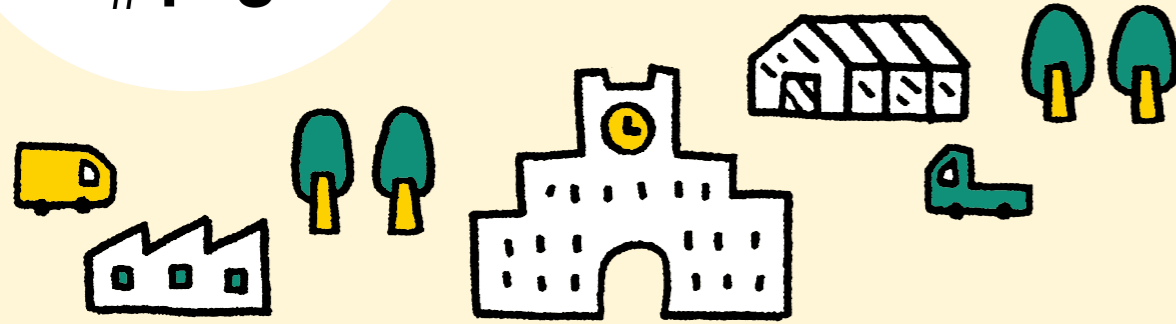


# これからの地域連携

2018年秋に答申された中教審の「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」では、高等教育と社会との関係をさらに発展させることが期待されている。今回は「地域連携」をテーマに、これからの社会における大学の役割を考えていきたい。

## 持続可能・地方分散(均衡発展)型

シナリオ #1~3



### 誘導に有効な高等教育政策

- 一定程度の都市部の大学の規模の確保
- 大学進学率の向上
- リカレント教育の推進
- 教育投資の充実
- 国際通用性の確保

~持続可能な日本の未来に必要な高等教育政策は何か?

### AIを活用した、日本社会の未来と高等教育に関するシミュレーション結果

右は、「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン」の議論の参考用に文科省、日立京大ラボ、京都大学こころの未来研究センターが行ったAIによる2050年のシナリオのシミュレーション結果を8つのシナリオに収められたもの。このうち、シナリオ1、2、3が地方を含めた日本全体の均衡ある発展につながるという。

シナリオ #	人口	財政	地域	環境資源	雇用	格差	健康	幸福	教育	解釈
1	○	△	○	○	○	△	○	△	△	持続可能性高・社会的パフォーマンス良・教育中
2	○	△	○	○	○	△	○	△	○	持続可能性高・社会的パフォーマンス良・教育充実
3	△	○	△	○	○	△	△	△	○	持続可能性高・社会的パフォーマンス中・教育充実
4	○	×	○	△	○	×	○	△	△	持続可能性中・社会的パフォーマンス中・教育中
5	×	○	×	○	×	△	×	△	×	持続可能性中・社会的パフォーマンス低・教育低下
6	×	○	×	○	×	△	×	△	△	持続可能性低・社会的パフォーマンス低・教育中
7	×	○	×	△	×	△	×	△	△	持続可能性低・社会的パフォーマンス低・教育中
8	×	○	×	△	×	△	×	△	△	持続可能性低・社会的パフォーマンス低・教育中

© Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology, Kyoto University, Hitachi, Ltd. 2018. All rights reserved.

## 持続不良・地方分散型

シナリオ #4

### 地域の持続可能性

#### II 大学の持続可能性

文部科学省、日立京大ラボ、京都大学こころの未来研究センターが行った「AIを活用した、日本社会の未来と高等教育に関するシミュレーション」では、2万通りのシミュレーション結果が得られた。そしてそれらは、4つの持続可能性(①人口②財政③都市・地域④環境・資源)および5つの社会的パフォーマンス(①雇用②格差③健康④幸福⑤教育)の観点から、大きく8つのシナリオにまとめられた。望ましい

### 誘導に有効な高等教育政策

- 大学進学率の向上
- 留学生の確保
- 研究者の確保・育成
- 教育投資の充実
- 地方大学の振興

分岐点2  
2034~  
2035年ごろ

## 持続困難・都市(一極)集中型

シナリオ #5~8

分岐点1  
2027~  
2028年ごろ



シナリオは「持続可能・地方分散(均衡発展)型シナリオ1、2、3」で、その方向に進むには、特に「教育の質」「大学進学率」「地方大学の振興」を重視していくことが有効であるという。

成長・拡大から成熟時代へとパラダイムシフトが起こる中で大学は、地域との関係について、見直しを迫られている。従来大学は、市民講座や学生ボランティア、または自治体の審議会への教員参加などで、地域と連携してきた。しかし、これまでのような取り組みだけで本当に、若者の流出や高齢化、産業の衰退といった切実な地域の課題に具体的な解決策を提示できるのだろうか?

「自学の特色を生かして地域の課題にコミット」できるかどうか、今後大学が生き残る術であると同時に、地域の持続可能性を高めると言えるのではないか。地方の大学に限らず、都心部の大学においても、本特集が社会の一員として、大学の役割や機能の再定義について考える一助になればと考えている。